

東京都・府中市芸術文化連携事業プログラム「共生社会を聞いて、みる」		
エピソード	ゲスト	公開日
Vol.0	高野律雄さん(府中市長) 「府中市における地域共生社会実現に向けた取り組みについて」	現在公開中 4月以降 順次公開
Vol.1	中川英治さん(パリ2024パラリンピック ブラインドサッカー監督) 「スポーツにおける共生社会について」	
Vol.2	高田裕美さん(書体デザイナー・株式会社モリサワ) 「誰もが読みやすい！？奇跡のフォントとは」	
Vol.3	小野寺敏雄さん(府中市聴覚障害者協会会長) 「2つあるって知ってた？日本手話と日本語対应手話」	
Vol.4	柴田まりさん(アール・ブリュット立川実行委員) 「アール・ブリュット作家との家族としての関わり」	
出演	パーソナリティ:宮川亜弓(Artist Collective Fuchu [ACF]) グラフィックレコーディング:清水淳子	

※ Vol.0～2は、昨年10月に府中市のシンボルの一つ、大國魂神社から延びるけやき並木通りにて行われた、府中市制施行70周年記念「市民文化の日 in けやき並木」内で公開収録を実施しました。

■府中市の事業背景について

府中市は、今年開催される東京2025デフリンピックのレスリング競技会場でもあることから、機運醸成のための共生社会を考えるプログラムの実施を必要としていたことと、2026年度から始まる次期府中市文化芸術推進計画策定に向け、活動の担い手の声を拾うことを希望していたことより、本プロジェクトを行いました。

■東京都・区市町村芸術文化連携事業について

東京文化戦略2030の「誰もが芸術文化に身近に触れられる環境を整え、人々の幸せに寄与する～人々のウェルビーイングの実現に貢献する」目標のため、生活の中での芸術文化活動が増えること、行政の様々な場面で芸術文化が活用されていることを目指し、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京とともに、区市町村単独では取り組めない事業や、区市町村の試行的な取り組みの支援を行っています。

■アートプロジェクトとは

美術館やギャラリー以外の場所で行われるアート活動を指し、作品展示だけでなく、そのプロセスや人々との関わりを重視するもの。また、自治体など多様な人々が主催しているケースが多いのも特徴。

「日本型アートプロジェクトの歴史と現在1990年→2012年」
(編著 熊倉純子 長津結一郎 アートプロジェクト研究会)より抜粋